

巻頭言



宮崎県知事 河野 俊嗣

「くらしの豊かさ日本一の宮崎」の実現にむけて

平成 22 年に本県に甚大な被害をもたらした口蹄疫の発生から 5 年が経過しました。

口蹄疫からの再生・復興を次なる成長へと繋げるために注力してきたフードビジネスや医療機器関連産業などが着実に力をつけてきており、本県は、新たな飛躍の時を迎えています。

また、今年 3 月には、東九州自動車道が宮崎市から大分市まで繋がり、海路においては、油津港、細島港両港の改良整備が相次いで完成し、空路においても、既存のソウル、台北に加え、3 つ目の国際線となる香港線が新設、さらには、LCC の関西空港線の就航が決定するなど、陸・海・空それぞれの交通インフラの整備が一挙に進展し、東アジア地域をはじめ、国内外との人・モノ・情報の交流拡大に繋がる「みやざき新時代」を迎えております。

こうした新たな成長の芽をさらに大きな成果へと結実させるため、本年 7 月に県政の指針となる「未来みやざき創造プラン」(アクションプラン) を策定し、国際関連施策についても戦略的に展開していくこととしています。

まず、人財育成について、人口減少下において、地域の活性化を成し遂げていくためには、地域に根付きながらも国際的な視野を持って活躍する人財の育成が急務となっていることから、外国語教育や海外留学制度の充実などにより、世界を舞台にビジネスや文化活動などを行うグローバル人財の育成に取り組んでまいります。

次に、産業の振興については、現在、フードビジネスなど本県の特性や強みを生かした新たな成長産業が育ちつつあることを踏まえ、交通インフラの整備を追い風とし、今年度中に「みやざきグローバル戦略」を策定し、アジアをはじめ世界市場も視野に入れた販路拡大の取り組みなど、経済交流の発展に積極的に取り組んでまいります。

また、こうした取り組みと併せ、県民と外国人住民が文化の違いを認め合い、地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会づくりにも積極的に取り組んでまいります。外国人住民への支援や連携にしっかりと取り組むことが、外国人から見た本県の「宝」の磨き上げに繋がっていくものと考えております。

このような中、本県では、新たに「^{にっぽん}日本のひなた 宮崎県」というキャッチフレーズを作成しました。これは、本県の特長である恵まれた日照環境が育む豊かな自然や、宮崎牛、マンゴー、ライチなどの魅力ある食材、さらには日向神話ゆかりの文化や、温かい県民性などを「ひなた」という言葉で表現したものです。

今後、こうした取り組みを通じて本県の魅力を全世界へと発信しながら、県民、市町村、関係団体の皆様と連携し、「くらしの豊かさ日本一の宮崎」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。